

牛伝染性リンパ腫（EBL）発症予防のための調査研究

：畜産研究所 串田晴彦

【目的】牛伝染性リンパ腫（EBL）発症に対して抵抗性を示す遺伝子（BoLA-DRB3*009:02）を活用した清浄化への取組に向け、当研究所及び県内の和牛農家が飼養する繁殖雌牛について抵抗性遺伝子の保有状況調査及び当該遺伝子保有牛の作出を実施。【方法】当研究所で飼養している黒毛和種繁殖雌牛計 116 頭及び県内 5 農場で飼養されている同種繁殖雌牛 413 頭の血液サンプルについて、PCR-RFLP 法等により抵抗性遺伝子の保有状況を調査。また、当研究所で繫留している抵抗性遺伝子を保有する基幹種雄牛「秋藤花国」と当研究所内の繁殖雌牛との交配を実施。【結果】当研究所における EBL 発症抵抗性遺伝子の保有率は 0.86%（116 頭中 1 頭保有）、県内 5 農場では 2.18%（413 頭中 9 頭保有）。また、抵抗性遺伝子保有牛の作出について、「秋藤花国」産子が 4 頭産まれ（うち 1 頭は死産）、1 頭が抵抗性遺伝子を保有。